

子どもの主体性を育む合唱活動に関する一考察

－合唱発表会に向けた指揮者とピアノ伴奏者の指導を通して－

A Consideration of Chorus Activities that Students Individuality
－Through Guidance for Conductor and Accompanist to Chorus Recitals－

坂 田 朋 優 山 内 芳 春*¹
SAKATA Tomomasa YAMAUCHI Yoshiharu

キーワード：主体性，合唱，指揮，ピアノ伴奏，ブックレット

I はじめに

学校教育における合唱活動，特に行事における合唱コンクール（発表会）は，クラスの一体感や団結力など，子どもたちの協調性や人間性を育てる上で，大変意義のある活動であるとされている。ようやくコロナ禍が落ち着いてきた今日，筆者（山内）の勤務するH中学校でも今年度は，合唱発表会が実施されることとなった。

このコロナ禍の影響により約3年間，合唱を含む歌唱の活動が行事はもちろん音楽の授業ですら，ほとんど実施することができなかった。そのため，子どもたちの合唱の基礎的な能力やこれまで培われてきた合唱の伝統が途絶えてしまったことなどを考慮し，今年度は，コロナ禍以前に行ってきた順位や賞が伴うコンクール形式ではなく，それらを伴わない発表会形式の合唱を中心とする文化祭として実施することとなった。

そこで今年度は，この合唱発表会を通して，子どもたちに歌唱や合唱の基礎的な能力を身につけることはもちろんであるが，子どもたち自らが主体となって，ひとつの音楽をつくり，達成感の得られる合唱ができるよう指導していきたいと考えた。

本稿では，指揮者やピアノ伴奏者，パートリーダーを務める生徒を中心に，主体的に合唱活動ができるようなツールとして，合唱づくりのマニュアル的なブックレットの作成の試みについて述べる。併せて，GIGAスクール構想における1人1台端末の活用についても述べていくこととする。

*1 札幌市立東月寒中学校（小田原短期大学非常勤）

Ⅱ 学校教育における合唱活動

1 合唱活動の意義

音楽科における合唱は、これまでも「他者とともに一つの音楽表現をつくっていく体験を通して、イメージを伝え合ったり、共同する喜びを感じたりすることのできる指導¹⁾」を大切にしてきたとされている。また、合唱は「“仲間”の大切さを痛感し、それを他者に伝えることができる最良の活動²⁾」であるともされており、合唱を行うことで他者との協調性が身につく、「人生における大切なスキルのひとつが、合唱を通して手に入る³⁾」ともされている。

これらのことから合唱は、仲間と共に合唱することで音楽的な協調性や能力を身につけるだけに留まらず、その過程で培われる一体感や相互理解など、一つの曲に取り組むということでもたらす教育的効果は大きいと考えられる。多くの学校で校内合唱コンクールが行われているのも、順位や賞といった競争的な側面よりも、その過程で得られる教育的効果はるかに奥深い意義があるからこそであると考えられる。

2 指導の際の留意

以下の【表1】は、第9次学習指導要領における音楽科の「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標¹⁾である。

【表1】「学びに向かう力、人間性等」の涵養に関する目標

第1学年	第2学年及び第3学年
(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

今回の合唱発表会は、学校行事の一つとして行われるものであるが、音楽科の授業の中でも合唱指導を行なっていくため、学習指導要領における上記の【表1】における目標にも重点をおいて指導をすることとした。

子どもたちが主体的に合唱に取り組むためには選曲も重要なポイントである。「選曲は子どもたちの意欲を生み出す重要なポイントである⁵⁾」ともいわれており、生徒の意欲をそそるための選曲の条件⁶⁾として以下の①～⑤にまとめられている。

- ① メロディやひびきが美しく長い間歌っていても飽きのこない、常に新鮮な感動を得られる曲。
- ② ソプラノだけではなく、各パートにメロディの躍動のある曲。
- ③ 中学生では、男声パートが低すぎない声域を考慮した曲。

- ④ 詩が魅力的で中学生でも理解でき、夢のあるような詩をもつ曲。
- ⑤ 難易度を考慮し、充分消化しうる曲。

以上の条件を踏まえ、さらに、今回の合唱発表会では、各学年にテーマを設定し選曲を行なった。【表2】は、そのテーマと自由曲の一覧である。

【表2】選曲におけるテーマと自由曲の一覧

学年	テーマ	自由曲 A	自由曲 B
1年生	仲間	『そのままの君で』 作詞：松井 孝夫 作曲：松井 孝夫	『With You Smile』 作詞：水本 誠・英美 作曲：水本 誠 編曲：富澤 裕
2年生	思いやり	『心の瞳』 作詞：荒木 とよひさ 作曲：三木 たかし 編曲：滝口 亮介	『明日へ』 作詞：富岡 博志 作曲：富岡 博志
3年生	未来	『手紙』 作詞：アンジェラ・アキ 作曲：アンジェラ・アキ 編曲：鷹羽 弘晃	『fight (ファイト)』 作詞：YUI 作曲：YUI 編曲：松本 望

上記の【表2】の曲から、各クラス1曲を任意に選択しすることとした。

3 学校行事との関わり

学校行事において合唱は、入学式や卒業式などの式典をはじめ、校内合唱コンクールや文化祭といったところで歌われている。しかし、「それを単に式典の見栄えのためだけに練習させるのではなく、音楽科でうたの歌詞や旋律などの構成要素に着目させ、それらが生み出す曲想を感受して歌唱表現できるように指導する」⁷⁾ことが重要であり、「このような音楽科での学習を基盤として、音楽とその音楽が演奏される場との関係を学習させ、場の雰囲気合うような表現を考えるとという幅広い学習が可能となる」⁸⁾とされている。

Ⅲ 子どもの主体性を育むために

1 子どもの主体性の育成

中央教育審議会によると「主体性や自律性の育成は、人格の形成や自己実現を目指す上で核となるものであり、人間関係や社会参画の基盤となる重要な要素でもある」⁹⁾とされており、学校生活をとおして「個性や能力を伸ばし、主体性・自律性を育成する」¹⁰⁾ことが求められている。

2 主体性を育むためのツールとして

子どもたちの主体性を育むためには、いうまでもなく、教師が子どもたちに教えたり、指示をしたりするのではなく、子どもたち自らが考え、練習することができる環境を整えることが必要不可欠であると考えます。その一つとして書籍やICTなどのツールの活用ができる。例えば、音楽用語などの知識や、練習計画や練習の進め方などについて出版されている書籍は、無数に存在するであろう。また、インターネット上においてもいくつもの情報が掲載されている。本校においても、学校図書館として合唱関連の書籍が蔵書されている。また、辞書2冊と合唱に関する書籍1冊が学級図書として置かれている。ICTに関しては、2019年に開始されたGIGAスクール構想により、1人1台端末としてGoogle Chromebookが配置されている。インターネットで情報検索をすることはもちろん、カメラ機能を使って練習の様子や指揮の姿を録音・録画することも可能である。

しかし、いくら優れたツールがあっても〈I〉で述べたように、この3年間コロナ禍によりどの学年も経験したことのない合唱発表会の練習を子どもたちに、唐突に書籍やICT端末を活用して活動をさせることは困難である。そこで、まずは比較的ページ数の少ないブックレットに練習方法等を凝縮したものを作成し、配布することとした。

IV ブックレットの作成

1 指揮者編

(1) 作成にあたっての留意点

指揮者編を作成するにあたっては、まず、学級経営においてリーダー性のある生徒を育てるということも念頭におき、指揮者とは、音楽を一つにまとめていく重要な役割であることを意識づけさせることに重点をおいた。指揮の振り方などの指揮法に留まらず、指揮者の役割や指揮者としての態度や姿勢などについてまとめた。その上で、実際の指揮の振り方や合唱練習で気をつけること、また、指揮の個人練習の仕方などについて掲載した。更に、練習の際に1人1台端末として生徒の持っているGoogle Chromebookを活用した練習（主に録音・録画機能）についても掲載することとした。

(2) 内容

以上の〈IV／1／(1)〉を踏まえて、指揮者編では、次の項目を掲載した。

1 指揮者は何をするのか

2 指揮の基本

①息 ②速さ（テンポ）と拍子 ③指揮法のテクニック（技法）

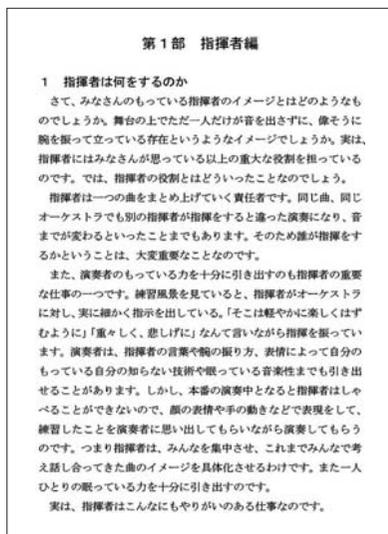
3 表現の提示（体の部分の役割と使い方の例）

①右手 ②左手 ③眼 ④表情

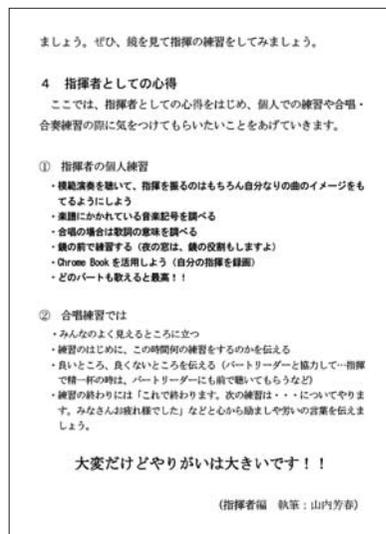
4 指揮者としての心得

①指揮者の個人練習 ②合唱練習では

次の、【図1-1】及び、【図1-2】は、生徒に配布した指揮者編の一部である。



【図1-1】ブックレット「指揮者編」の一部



【図1-2】ブックレット「指揮者編」の一部

2 ピアノ伴奏者編

(1) 作成にあたっての留意点

伴奏については、当然ながらピアノの演奏ができる生徒が選ばれることになり、経験やレベルも異なる。音楽教室等で連弾などのアンサンブル経験があったとしても、中学生という年代では伴奏経験が多いとは言えず、なかには初めてというケースもある。演奏上の問題の一つとしては、一般的に用いられるピアノの教本とは違い、多くの伴奏楽譜には運指が書かれていないことが挙げられる。そのため、伴奏パートの譜読みをして、ある程度弾けるようになるまでに時間を要することもある。また、両手を使用して演奏している音の他に、合唱を聞きながらと弾くというのは簡単なことではない。合唱での重要な役割が与えられているピアノ伴奏について考える際には、これらの背景にあらかじめ留意しておく必要がある。

ピアノ伴奏者編の作成にあたり、年齢に応じた標準的なピアノ学習経験があることを前提として、基本的な伴奏の役割を記述し、準備・練習や伴奏のポイント¹¹⁾に関しては、アンサンブルで重要なリズム感やテンポの意識、旋律を聞きながら演奏することに重点を置いた。

(2) 内容

以上の〈IV/2/(1)〉を踏まえて、ピアノ伴奏者編では、次の項目を掲載した。

- 1 伴奏とは
- 2 ソロと伴奏の違い
- 3 ピアノの位置・音量
- 4 準備・練習について
- 5 課題曲伴奏のポイント

次の、【図2-1】及び、【図2-2】は、生徒に配布したピアノ伴奏者編の一部である。

第2部 ピアノ伴奏者編

1 伴奏とは

英語では「伴奏者」を accompanist と書きます。「伴奏する」という意味の動詞 accompany には、「～と一緒にに行く」という意味があります。では、実際に演奏するとき、この意味をそのまま捉えるだけでよいでしょうか？

「伴奏」にはその言葉以上の役割、つまり指揮や合唱とみんなでの一つの音楽を作り上げるうえで大切な役割があります。ほとんどの場合、前奏や後奏を含めると、ピアノは実際に音を出して演奏している時間が一番長く、全体を通しての主役ではないものの、歌を表現するための「文法」として、なくてはならない存在です。

代表的な伴奏の役割を挙げてみます。

- ①テンポ感、リズムなどで演奏の支柱となる存在
 - ➡演奏全体にも影響する大切な役割です。
- ②ハーモニーでメロディーを彩るデザイナー
 - ➡同じメロディーでもどんな和音をつけるかで印象が変わります。左手のベースの動きにも注目してみましょう。
- ③歌い出しなど歌いやすいように導く誘導役
 - ➡前奏はもちろん、休符やブレス後のメロディーの入り方・呼吸を意識しながら弾く必要があります。

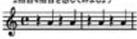
【図2-1】ブックレット「ピアノ伴奏者編」の一部

音量は、パートの人数や声量によっても調整しなければならないことがあります。どのようなバランスで聞かしているか指揮者と相談しながら決めましょう。

4 準備・練習について

①リズム感やテンポを保つために、しっかり拍を取りながら練習することは必要です。特にポップス系の4拍子の曲では、2拍目と4拍目を感じながら練習してみるのも効果的です。

このリズムまでで、
2拍目4拍目を感じましょう



②みんなと一緒に練習するときは、途中で音のミスがあっても、流れを大切に、立ち止まらずに進みましょう。

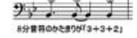
③定期的に音楽を考えてみるために、時には録音をしてみたり、指揮者やパートリーダーに聞いてもらったりすることも大切です。

5 課題曲伴奏のポイント

1年生

<With You Smile>

練習番号①は歌の音域より右手の音域が高めなので、音量を出さないように注意しましょう。「3+3+2」の伴奏形は歌のメロディーや右手のスラーを意識したうえで、リズムを大切に。



【図2-2】ブックレット「ピアノ伴奏者編」の一部

3 パートリーダー編

(1) 作成にあたっての留意点

パートリーダー編の作成にあたっては、指揮者同様に学級経営的な視点を念頭におき作成をした。指揮者と同様にリーダー性が必要とされることから、知識的なことのみで留まらないよう作成をした。内容は、パートリーダーとしての役割など、具体的な練習の進め方や合唱の並び方の例も掲載した。

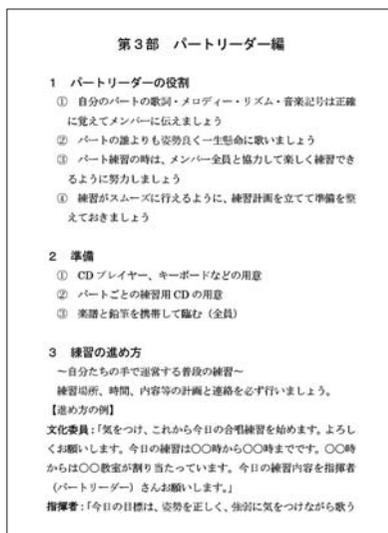
(2) 内容

以上の〈IV/3/(1)〉を踏まえて、ピアノ伴奏者編では、次の項目を掲載した。

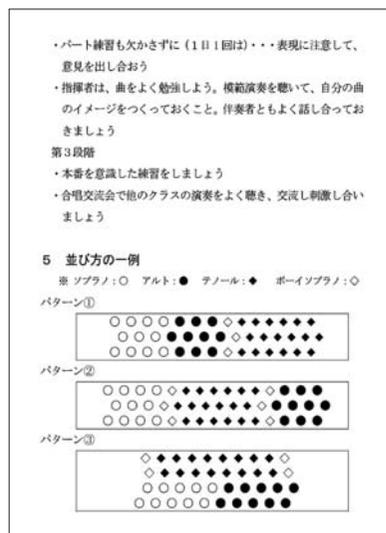
- 1 パートリーダーの役割
- 2 準備
- 3 練習の進め方
- 4 練習の段階

5 並び方の一例

次の、【図3-1】及び、【図3-2】は、生徒に配布したパートリーダー編の一部である。



【図3-1】ブックレット「パートリーダー編」の一部



【図3-2】ブックレット「パートリーダー編」の一部

本ブックレットを作成にあたっての参考文献等は、巻末に掲載する〈ブックレットの参考文献・参考資料〉を参照。

V ブックレットの試行

1 合唱発表会の概要

実施日：2023年9月29日（金）

会場：札幌市立H中学校 体育館

練習期間：2023年9月5日（火）～9月28日（木）

練習時間：音楽科及び、総合的な学習の時間

2 ブックレットの実践及び、練習過程の様子

今回、ブックレット配布の対象としたのは、各学級で指揮者、伴奏者、パートリーダーを務めた生徒である。

合唱練習を開始するに当たり、放課後の時間を使い各学年ごとに合唱リーダー講習会を行なった。ブックレットはその際に、印刷版と電子版（Google Classroomを用いて配信）を配布した。講習会では、ブックレットを基に、練習方法等についての説明を行なった。

練習の過程では、初めは担任教師が手助けしながら練習を行う様子が見られたが、中盤にな

ると、指揮者を中心として生徒自らが主体的に練習に取り組む様子が見られた。また、とある練習では伴奏者が欠席し、教師が代わりに伴奏した際には指揮者の生徒が「ここからお願いします」と教師の指示を待たずに練習を進める姿が見られた。更に、Google Chromebook を活用し、自分の指揮を録画したり、教師の指揮を録画したりする様子が見られた。

これらのことから、練習を重ねていくにつれて生徒の主体性が高まってきていると考えることができよう。

3 アンケート結果と検討

〈V/1〉において述べた合唱発表会において、指揮者、ピアノ伴奏者、パートリーダーを務めた生徒に対して合唱発表会後にアンケート調査を行った。以下に、アンケート調査の結果とその結果に対する考察を述べることとする。

【表3】は、設問「主体的に練習に取り組むことができましたか」についての6段階評価による回答結果である。

【表3】「主体的に練習に取り組むことができましたか」という問いに対する回答結果

全然できなかった 0	1	2	3	4	とてもできた 5
1名 (3%)	0名 (0%)	0名 (0%)	4名 (12.1%)	16名 (48.5%)	12名 (36.4%)

この回答結果（【表3】参照）から、「主体的に練習に取り組むことができましたか」についての回答の平均値が4.12であった。このことから本実践を通して生徒が主体的に合唱の練習に取り組むことができたと考えることができる。

【表4】は、設問「今回の合唱を通して主体性が身に付いたと思いますか」についての6段階評価による回答結果である。

【表4】「今回の合唱を通して主体性が身に付いたと思いますか」という問いに対する回答結果

全然身に付かなかった 0	1	2	3	4	とても身についた 5
0名 (0%)	0名 (0%)	2名 (6.1%)	5名 (15.2%)	8名 (24.2%)	18名 (54.5%)

この回答結果（【表4】参照）から、「今回の合唱を通して主体性が身に付いたと思いますか」についての回答の平均値が4.27であった。このことから本実践を通して指揮者・伴奏者・パートリーダーを務めた生徒に主体性が身に付いたと考えることができる。

【表5】は、設問「今回配布したブックレットは役に立ちましたか」についての6段階評価による回答結果である。

【表5】「今回配布したブックレットは役に立ちましたか」という問いに対する回答結果

全然役立たなかった 0	1	2	3	4	とても役に立った 5
0名 (%)	0名 (0%)	1名 (3%)	7名 (21.2%)	10名 (30.3%)	15名 (45.5%)

この回答結果（【表5】参照）から、「今回配布したブックレットは役に立ちましたか」についての回答の平均値が4.18であった。このことから実践で作成したブックレットは練習で役に立ったと考えることができる。

次の【表6】は「今回の合唱発表会に向けてリーダーを務めて自分にどのような力が身に付いたと思いますか（自由記述）」である。尚、項目の分類分けは筆者によるものである。

これらの記述から、「みんなをまとめて上げる力」「みんなをまとめて何をやるかとか指示する力が身についた」など、リーダー性や指導力の向上や、「自分たちで課題を見つけその課題をどのように練習してどのようにしたいのかを先生方の力にあまり頼らず考えることができました」「パートリーダーを努めて私は主体性が身についたと思う」など、合唱活動を通して生徒の主体性の向上を図ることができたと考えることができる。

【表6】「今回の合唱発表会に向けてリーダーを務めて自分にどのような力が身に付いたと思いますか（自由記述）」という問いに対する回答結果（原文まま）

リーダー性・指導力の向上に関する記述	主体性の向上に関する記述
人をまとめる力／みんなにわかりやすい指示をだす力が身につきました／みんなをまとめて上げる力／みんなをまとめる力／みんなに指示を出す力／全体をまとめる力／クラスメートをまとめる力／みんなをまとめて何をやるかとか指示する力が身についた／主体的にみんなに関わろうとする態度や姿勢、もっとこうしたほうがいいなどのポイントを見つけ、みんなに伝えるように教える力が身についたと思う／みんなをまとめる／まとめる力、協力する力／みんなをまとめる力が身についた。クラスをまとめるリーダーシップ／まとめる力・楽しむ力／みんなと一緒に歌うことができないぶん、自分がみんなを支えて影で自分自身努力する力が身についたと思う／観察する力	目標達成をするために、主体的に取り組む力がついた／みんなで協力すること／自分たちで課題を見つけその課題をどのように練習してどのようにしたいのかを先生方の力にあまり頼らず考えることができました。そのため、話し合う力、自分たちを客観的に見る力がとてもついたと思います。この力を日々の生活でも活かせるように頑張りたいです／パートリーダーを努めて私は主体性が身についたと思う／練習メニューなど調査して組む力や、リーダーとして動いてみて、みんなをみて改善点を指示したりする大切さを学んだり、文化行事に取り組み人を見る姿勢を学ぶことができた。
音楽の技能の向上に関する記述	思考力の向上に関する記述
正確にリズムを刻む力、みんなに指示を出す力、全体を見渡す力が身についたと思います！／指揮力／歌と合わせたときの全体のバランスを見れるようになったまとめる力・楽しむ力・観察するちから／1つの曲を分析して解釈する力まとめる力・楽しむ力・観察するちから／伴奏者としては指揮者や歌う人にリズムを合わせるた	計画を立てる力／後輩ではなく対等な関係である同級生をどのような言葉、行動でまとめられるかを考える力／どんな練習をすれば歌声がきれいになるかなどの対応力と思考力／自分たちが目指す合唱の完成形に近づくために歌い方や声の出し方をどのようにすれば良いのかを考えて改善する力／他にも私達のクラスには何が必

めにアイコンタクトで合わせたりしました／みんなの前に出ても落ち着いた態度でピアノを引いたりアドバイスできるようになった	要で何ができているのかを考える力が付きました／周りを見て行動する力
達成感に関する記述	コミュニケーション能力の向上に関する記述
今まで私は人をまとめる仕事というものをしたことがなかったので、大人数をまとめることの大変さや醍醐味を味わった	より多くの人と話すことで人と会話する力が身についたと思う／みんなの歌を聞いてどんなところがまだ足りないかを確認し合うことができた

VI まとめ

学校の文化的行事のひとつである合唱発表会において、指揮者やピアノ伴奏者、パートリーダーを務める生徒を中心に、主体的に合唱活動ができるようなツールとして、合唱づくりのマニュアル的なブックレットの作成を試みた。そこで、ブックレット配布後からの練習の様子や合唱発表会后に、ブックレットを配布した生徒を対象に振り返りとしてアンケート調査を行い、その結果を検討し考察した。

その結果、練習の過程では、指揮者の生徒を中心として生徒自らが主体的に練習に取り組む様子が見られた。また、とある練習では伴奏者が欠席し、教員が代わりに伴奏した際には指揮者の生徒が「ここからお願いします」と教師の指示を待たずに練習を進める姿が見られた。さらに、アンケート調査から、「みんなをまとめ上げる力」「みんなをまとめて何をやるかとか指示する力が身についた」など、リーダー性や指導力の向上や、「自分たちで課題を見つけその課題をどのように練習してどのようにしたいのかを先生方の力にあまり頼らず考えることができました」「パートリーダーを努めて私は主体性が身についたと思う」など、合唱活動を通して生徒の主体性の向上が見て取れた。

これらのことから、本研究で作成したブックレットには一定のニーズがあると考えられることができ、生徒たちの主体性を育むことに資すると考えられる。

今後は、本研究で得られた知見を活かし、教員養成課程における指揮法と伴奏法について研究を進めていきたいと考える。

註

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』教育芸術社、平成30年、p.19.
- 2) 合唱の本質ホームページ「中学校教育における学級合唱の目的と意義」<http://klang.hannnari.com/gasshounohonshitsu.html> [令和5年8月8日8時23分閲覧]
- 3) ドレスルームアミ合唱団ホームページ「合唱で大切な協調性」<https://casty.info/drg/news/itiran/itiran.php?id=32> [令和5年8月8日8時29分閲覧]

- 4) 前掲1)
- 5) 竹内秀男『合唱指導の実際と運営 実践的アプローチとCD付指導例』音楽之友社, 1992年, p.65.
- 6) 同上書, p.76.
- 7) 日本学校音楽教育実践学会『音楽教育実践学事典』音楽之友社, 2017年, p.242.
- 8) 同上
- 9) 文部科学省ホームページ「2 教育内容等の改善の方向 (1) 人間力の向上を図る教育内容の改善」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1346331.htm [令和5年9月23日8時32分閲覧]
- 10) 同上
- 11) ブックレットに掲載の譜例は筆者(坂田)によるものである

ブックレットの参考文献・参考資料

- ・山本訓久『新版 学ぼう指揮法 Step by Step わらべ歌からシンフォニーまで』アルテスパブリッシング, 2016年
- ・清水敬一・小針絢子『必ず役に立つ 合唱の本』ヤマハミュージックメディア, 2013年
- ・長田栄二「指揮者講習会 資料」2019年
- ・奥千絵子『ピアノと向き合う 芸術的個性を育むために』春秋社, 2010年
- ・YUI・松本望「fight (ファイト)」NHK出版, 2012年
- ・アンジェラ・アキ・鷹羽弘晃「手紙」NHK出版, 2009年
- ・松井孝夫「そのままの君で」『My SONG クラス合唱用 (7訂版)』教育芸術社, 2021年, pp.37-41.
- ・富岡博志「明日へ」『My SONG クラス合唱用 (7訂版)』教育芸術社, 2021年, pp.202-207.
- ・荒木とよひさ・三木たかし・滝口亮介「心の瞳」『クラス合唱曲集 ニューヒットコーラス ベストソング』音楽之友社, 2003年, pp.78-83.
- ・水本誠・水本英美・富澤裕「With You Smile」『クラス合唱曲集 ニューヒットコーラス ベストソング』音楽之友社, 2003年, pp.112-117.

附記

本稿の〈I〉坂田と山内の共同によって、構成したため担当部分の抽出は不可能である。作稿は〈IV/2〉を坂田が、それ以外を山内が担当した。

ブックレットの作成については、指揮者編とパートリーダー編を山内が、ピアノ伴奏者編を坂田が担当した。

